

ネオセルフ抗体

ネオセルフ抗体とは不育症の一つである抗リン脂質抗体症候群の原因として新たに注目されているβ2GPI/HLA-DR複合体に対する自己抗体です。抗リン脂質抗体症候群の方の子宮内膜にはネオセルフ抗体が存在しており、受精卵の周囲の毛細血管の血流を阻害して着床を妨げていることが分かっています。

ネオセルフ抗体を調べたところ、反復着床不全・子宮内膜症の方の約30%が、不育症の方の約20%が陽性であったことが報告されています。さらに、これらの方で抗凝固療法(バイアスピリン内服)を行ったところ、着床率、生児獲得率が有意に上昇したことが報告されています。

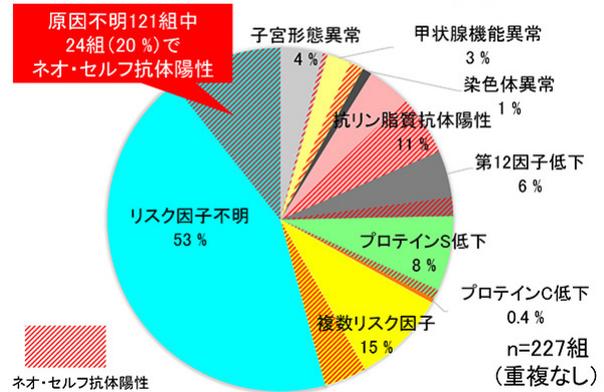
そのため反復着床不全・子宮内膜症、不育症の方でネオセルフ抗体を調べることを推奨します。

【ネオセルフ抗体陽性率】

	不妊症*	不育症
陽性割合	約30%	約20%

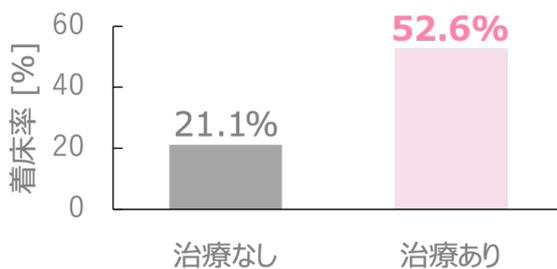
*反復着床不全、子宮内膜症

(図1) 不育症227組における原因別頻度



検査陽性の不妊症の方

抗血小板療法による治療介入効果検証



検査陽性の不育症の方

抗凝固療法による治療介入効果検証

